

各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

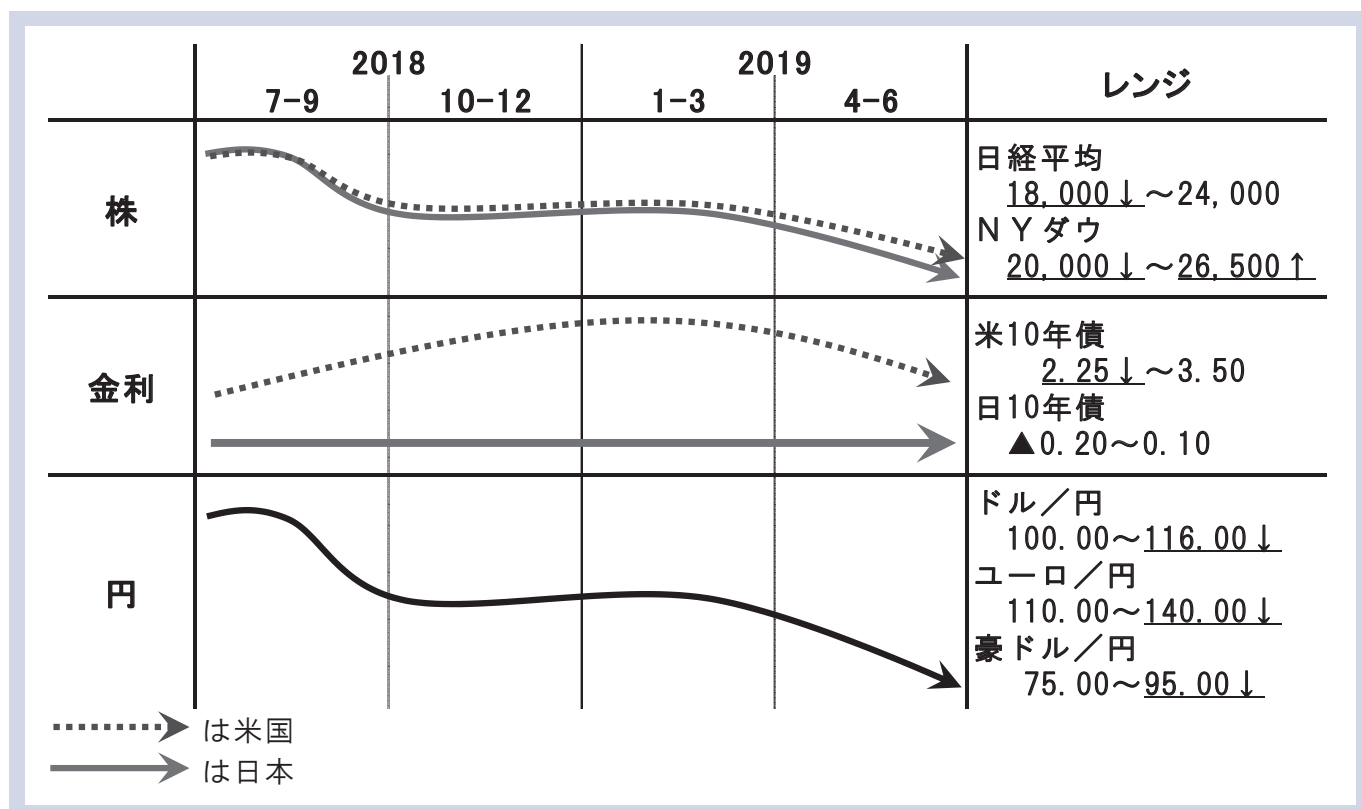
(6月4日時点)

グローバル経済・マーケット見通し

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	足元で生産活動に足踏みがみられるが、一時的なものとみられる。世界経済の回復に伴って輸出が増加基調で推移することに加え、企業収益の改善を背景として設備投資も持ち直すとみられ、企業部門主導で景気は先行き回復基調で推移するだろう。
② 米国	米国経済は、雇用・所得、資産残高の増加等が続くも、減税による個人消費の押し上げを背景に、堅調さを維持する公算が大きい。堅調な景気拡大により労働市場の逼迫が続く中、FRBはバランスシートの縮小や年3、4回の緩やかなペースでの利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	年明け以降のユーロ圏経済に急ブレーキが掛かっているが、寒波による建設・消費活動の停滞など、一時的な要因が影響した模様。雇用・所得環境の改善や世界経済の回復が支えとなり、堅調な拡大基調を持続する公算が大きい。景気や物価の下振れリスクが後退したことを受け、ECBは年内にも資産買い入れを終了する可能性が高い。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の自律回復による外需底入れの動きが景気押し上げに繋がっている。米中通商摩擦の行方は、中国への依存度が高いアジア・新興国に影響を与えることが懸念され、今後の行方には引き続き注意が必要である。他方、先進国を中心とする世界経済の拡大は、これらの国々の景気を下支えするとみられる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)